



# 山上憶良短歌賞

伯耆の国司

応募受付期間  
平成 24 年 11 月 1 日 (木) ~ 12 月 28 日 (金)

◆応募方法◆

「家族」をテーマとした短歌を裏面の応募用紙に書き、必要事項を記入し、倉吉市立図書館へ郵送または持参してください。

◆応募規定◆

- ①倉吉市内に在住または倉吉市内の小学校・中学校・高等学校に通学する児童、生徒に限ります
- ②未発表の作品とし、1人1首とします。
- ③入選作品の使用権は、倉吉市に帰属するものとする(無償)。

◆募集部門◆

- ①小学生の部
- ②中学生の部
- ③高校生の部

◆審査方法◆

選考委員により審査を行い、最優秀賞・優秀賞・佳作賞作品を決定します。

◆応募先・問い合わせ先◆

倉吉市立図書館

〒682-0816 倉吉市駄経寺町 187-1 電話 0858-47-1183 FAX0858-47-1180



千三百年の時空を超えて  
憶良がめざめる

山上憶良短歌賞作品集 倉吉市教育委員会

## 倉吉発、山上憶良短歌賞

倉吉市教育委員会教育長 福井伸一郎

七一六年、山上憶良が伯耆国庁の国司として、奈良の都から倉吉にやってきました。

「銀も金も玉も何せむにまされる宝子にしかめやも」

誰でも知っているこの歌の作者である山上憶良は、万葉歌人として有名です。しかし、残念なことに憶良が倉吉で作った歌は現存していません。倉吉で詠わなかったとは考えられません。子どものことを思い、貧しい領民の悲しみや苦しみを詠った憶良が、今生きていればどんな歌を詠ったのでしょうか。

きつとこんな歌を詠ったのだろうと、「山上憶良短歌賞」を創設しました。「家族」をテーマとして、倉吉市の小中高校生に短歌を募集したところ、小学生の部四五七首、中学生の部七〇八首、高校生の部六九首、合計一三三四首の作品の応募がありました。選考委員の先生方も、応募作品がたくさんあったこと、そして、その作品の出来栄えに喜んでいらつしやいました。審査会は、一つ一つの作品を例にあげながら感想を述べあい、本当に楽しいものでした。

この短歌大会を開催するにあたって、多くの方々にお世話になりました。まず、山上憶良が伯耆国庁の国司として倉吉にやってきていたことを子どもたちに教えること、これには朗読ボランティアグループ「やまびこ」の皆さんが、市内の小学校で出前授業を

してくださいました。山上憶良のこと、貧窮問答歌のことをわかりやすく、みごとな朗読で子どもたちに教えてくださいました。これは国語の古典の学習にも役立ちました。

そして、小・中・高校の先生方が、短歌づくりの指導をしてくださいました。中には全校で取り組んだ学校もありました。生徒たちに「家族」を考えさせる良い機会だと、校内で選考をし、ホームページでも取り上げて、家庭や地域にも発信しています。

選考委員の池本一郎先生、多田典子先生、中本久美子先生には鳥取県歌人会の立場から、岩垣和久先生、名越和範先生には小中高の国語教師の経験を踏まえて、この短歌大会にご尽力をいただきました。

また、倉吉市生涯学習講座では、平成二二年に「山上憶良は倉吉で何を見たか」をテーマに四回の講座を開設しました。後に山上憶良が赴任する筑前の国、大宰府発見塾の森弘子塾長にも御来倉いただき講義をいただきました。翌年には、倉吉市生涯学習講座専攻科「続・山上憶良は倉吉で何を見たか」を開き、朗読ボランティアやまびこの会による朗読「今よみがえる伯耆国司山上憶良」、そして、講演「万葉秀歌を味わう―山上憶良と大伴家持」（前鳥取県教育委員会中永廣樹教育長）を実施しました。

このような取り組みによって、倉吉市民の皆様は山上憶良と倉吉の関係が少しずつ知られてくるようになりました。

来年は、倉吉市内から鳥取県に広げるとともに、一般の部も設けたいと思います。そして、

山上憶良が倉吉にやってきて千三百年にあたる二〇一六年には、「因幡の家持 伯耆の憶良」として全国発信していきたいと考えています。

私たちは、ふるさと、倉吉に誇りと愛着を持ちたいと思います。この大会が、「愛着と誇り 未来いきいき みんなでつくる倉吉」(くらよしふるさとプロジェクト)をめぐす一つとして、市民の皆様が親しまれるものになるよう、そして全国に「くらよし」の素晴らしさが伝わるよう祈念いたします。

## 【総評】

池本 一郎

今度の山上憶良短歌賞は、全国でも注目される短歌賞だと言つてよい。名高い歌人の名前のついた短歌賞は少なくないが、山上憶良に関しては全国どこにもそれがないのである。憶良の名はよく知られているのにふしぎなことだが、その人と作品がきびしいせいであろうか。ともあれ倉吉市のこの企画が、全国初の憶良賞ということで、記念すべき賞なのである。

倉吉市の小・中・高生徒からどれほどの応募作が出てくるか見当もつかなかったが、結果は総数一二三四首(人)、うち小学生四五七首、中学生七〇八首、高校生六九首であった。予想以上に多いと言えよう。それはただ先生がたや関係各位のご尽力によるというほかはない。

短歌は言うまでもなく五七五七七の定型詩だから、初めて作るときはかなり難しいはずである。俳句や川柳も五七五の定型。決まった形に合わせて表現するという制約がある。短歌は五七五の上にさらに七七の長さがあり、初心の人には一段と難しいと言われる。これはよく耳にする。

今回の応募作品でも、じつは定型ということが最も心配だった。幸い応募作を読むと、大体定型に合っていて、安心もし、また感心もしたのである。

審査会ではいろいろ話し合い、小・中・高とも受賞一首、入選五首程度、佳作十首程度として決定した。憶良賞としてそれにふさわしい作品が選考できて喜ばしい。わずかの差で受賞に至らなかった作品も多く、ぜひ次のチャンスに心新たにチャレンジしてほしい。

小・中・高の別に、担当委員の批評をのせているので、それをよく読んで参考にしてほしい。私は全般的な総評を記すのみだが、ただ一言、憶良賞の作品について触れると、二首ともなかなかのレベルであると思う。小二の家族で大根をぬく歌、中二の学校帰りの家の門灯の歌、高二の自分の名を犬の名と間違える歌どれも秀作で、間違いなく全国水準を出ていると言える。入選作、佳作、その他の多数の応募作のもつ活力・エネルギーは、今日そして明日への明るい展望をひらいていくにちがいない。

## 小学生の部

### \* 憶良賞

大根はくるつとまわしてしゅつとぬくみんなで知った楽しい一日 (明倫小三年生 太田鈴乃)

### \* 入選

寒い夜父と一緒に風呂入る九九特訓でゆでだこになる (上灘小二年生 涌嶋颯太)

ねる時は家族そろって川のようにならんで静かに夢が流れる (小鴨小六年生 坂井葉菜)

野球では敬語を使い返事する父はコーチで兄は先輩 (成徳小六年生 淡路晶也)

流星群見ていた父の呼び声に家族全員飛び出す庭に (明倫小六年生 井垣広美)

ニコニコと笑顔がすてきお母さん仕事をがんばるレジの店員 (成徳小六年生 岩家理紗)

### \* 佳作

父さんといっしょに外でキャッチボール夢中で投げてもうへトへトだ (関金小六年生 竹内智哉)

夕ごはん今夜はからあげしのび足母にかくれてぼくつまみ食い (明倫小六年生 大田翔貴)

キャンちゃんはわたしのペットコーギーだカラス見つけて追いかけまわす (北谷小六年生 加藤万緒)

できなくてくやしなみだがでてきたらできると言つて手をにぎる母 (高城小六年生 古林万緒)

まだかなとつぶやきながら話する二つ空く席帰りを待つ (河北小六年生 室山瑞穂)

父さんとサイズが同じ服ふえたくつのサイズはぼくが一番 (西郷小六年生 多久和奨人)

ふる上がり「こしにぬって」とアンメルツ祖父から私にいつものセリフ (明倫小六年生 真野千夏)

幼き日母とつないだ手のひらのぬくもり残る今年卒業 (上北条小六年生 奥村歩未)

曾祖父の仕事を受けつく清掃車町に役立つほこれる仕事 (西郷小六年生 徳田翔也)

マウンドで1番背負って投球する父が見た夢ぼくがひきつぐ (社小六年生 小谷龍之介)

ばあちゃん家いたら急にいとこ来て片手にバリカンぼうずにされた (上小鴨小六年生 原田拳辰)

妹はまん画を読むとかたまつてまぶたも閉じない自分の世界 (高城小六年生 吉岡 想)

### 【小学生の部 講評】

琴浦町立安田小学校長 中 本 久美子

#### 第一回の憶良賞には、

○大根はくるつとまわしてしゅつとぬくみんなで知った楽しい一日

が選ばれました。家族総出で大根抜きをしたのでしょうか。その感動が、上の句の「くるつ」と「しゅつ」という言葉によって、生き生きと迫力を持って伝わってきます。声に出して読むとリズムがよくて気持ちいい。短歌はしらが大切です。勤労をしての満足感も下の句に込

められています。憶良賞にふさわしい実感のある短歌だと思いました。

この短歌に象徴されるように、小学生作品は、力作ぞろいでした。

○寒い夜父と一緒に風呂に入る九九特訓でゆでだこになる

一読して笑みが浮かびます。二年生の子がかけ算九九を覚えるために何度も何度も練習をして、ゆでだこになる。きつとつきあっているお父さんもゆでだこでしょう。二人の姿はもろろんのこと、がんばる気持ちとそれに寄り添うお父さんの気持ちもほのぼのと伝わってきます。よい短歌は、短い言葉で表現しながら、こんなふうの様子も気持ちも温度も色も浮かんでくるのですね。

○ねる時は家族そろって川のようにならんで静かに夢が流れる

限られた空間の中で家族が身を寄せながら寝ている。その姿を「川のようにならんで」「静かに夢が流れる」と比喻しています。比喻がうまい。穏やかで優しい家族の姿が浮かびます。今回のテーマ「家族」をとらえる中で、さまざま家族との場面が豊かに表現されています。仕事にがんばる父母の姿、家族への気遣い、祖父母のやさしさ等々。人と人とのつながりの元である「家族」、あまりにも当たり前の存在である「家族」をこの機会に立ち止まって見つめ直した短歌がたくさんあったことに敬意を示したいと思います。短歌は、ちいさな場面を自分の実感に近い言葉を探し出して、具体的に表現することが、より読み手の心に届くのだということを感じました。

## 中学生の部

### \*憶良賞

暗い道自転車をこぐ一直線家の門灯ぼくの灯台

(河北中二年生 大塚孝誠)

### \*入選

寒空に洗濯物が揺れている今日も母の手冷たいだろう

(東中二年生 妻藤笑海)

家に帰り「ただいま」といい「おかえり」と山びこのようにかえる喜び

(東中二年生 福井小央里)

息白くたそがれ小道粉雪舞うわが家の光近付いて来る

(東中二年生 岡部大樹)

電話口遠く離れた兄の声食べてる？元氣？受話機とりあう

(東中二年生 福井奈那)

学生の兄が帰ってきたその日明るくなってく普段の日よりも

(河北中二年生 林 莉子)

### \*佳作

気づいたら追いついていた兄の背丈追い越したいな兄の背中を

(久米中二年生 渡邊建人)

目がでかいよくいわれるよそのセリフでもきにしません母もだから

(西中一年生 山田侑芽)

父さんとはじめて一緒に買い物に男同士もなかなかいいな

(河北中二年生 岸田崇志)

勉強中静かにかかる毛布から伝うぬくもり伝わる思い

(河北中三年生 有福万穂)

笑顔五個家族みんなで初もうで雪がちらつく元日の朝

(河北中二年生 大羽杏奈)

手作りのべっこうあめをかあさんと甘いお餅が家中つつむ

(河北中二年生 小椋柚輝)

仕事場で社員まとめるお父さんいつもとちがう立派な姿

(河北中一年生 酒井里穂)

料理中ごはんのにおいで「できたかー」とひよっこ顔出す弟につこり

(河北中一年生 稲木優伽)

二年前家族で登ったこんぴら山みんな笑ってひざまで笑う

(河北中一年生 松井太雅)

らんらんかぞくとだんらんたのしいなこれからもずっとだんらんらん

(鴨川中二年生 小川玲奈)

## 【中学生の部 講評】

岩 垣 和 久

中学校の部には七〇八首の応募がありました。中学生の年代になると少し家族の中では難しい存在になり、両親をはじめ家族との関係が表面上うまくいっていないことが多いものです。しかし、それは本心からではなく、自我を確立するためにも通り抜けなければならぬ道。応募作品にはそんな微妙な気持ちを素直に詠ったものがたくさんありました。素直でまっすぐに前を見つめている中学生の姿に、頼もしさを感じました。

優良賞の「暗い道自転車をこぐ一直線家の門灯僕の灯台」。部活を終えて、学校からの帰りでしょうか。暗くなった道を、懸命に自転車をこいで脇目もふらずまっすぐに帰っていく様子が目に浮かびます。行く手の先には自分の家の門灯がほのかに見え、ひとこぎごとにそれははつきりと大きく近づいてきます。はあはあという息づかいも聞こえて来るようです。灯台は船の安全のために設置された航路標識ですが、孤独な存在の行く末を、希望を持って指し示してくれるものとして古来より数多くたとえられてきました。「僕の灯台」という表現には、家庭や家族は温かく迎えてくれると同時に未知なる将来に向かって進もうとしている自分に希望や勇氣を与えてくれる力強い心のよりどころであると確信した若い作者の思いが込められています。だから、何も迷うことなく、「一直線」に前に進んでいけるのです。

今回の短歌賞募集の取り組みに対し、各中学校の多大なるご協力をいただきましたが、特に河北中学校では、一人ひとりの体験や思いのこもったすばらしい作品をぜひ生徒・保護者・一般の方々に読んでいただきたいと、学年ごとに校内互選を行い、選出された作品をホーム・ページに取り上げられました。生徒の視点で選ばれたこれらの作品をあわせて読むと、中学生の思いや考え方がさらに立体的に見えてきます。本短歌賞のテーマである「家族」に添った取り組みに感謝の意を表したいと思えます。

## 高校生の部

### \* 憶良賞

十七年あなたが名前つけたのに間違えている犬の名前と

(倉吉北高二年生 M・I)

### \* 入選

家族一問題起こす妹が今日も懲りずに髪の毛染める

(倉吉北高二年生 K・T)

弟の小さな手をとる母親を目の端でおぼえた小さな嫉妬

(倉吉東高三年生 藤尾厚弥)

夕暮れや早く落ちいる秋の空ふいにただよう母の手料理

(倉吉農高一年生 石橋 翼)

離婚して父が不在の我が家庭家族は僕が支えてみせる

(倉吉農高二年生 坂野 翔)

### \* 佳作

振り返る皆んな笑って立っているさあ行こうかなカバンが重い

(倉吉農高一年生 菅原 楓)

家族ってみんな笑顔で素が出せるそんな家族になれたらいいな

(倉吉農高三年生 太田弥里)

亡き祖父におくるおもいを手紙にし墓石にかざる感謝の気持ち

(倉吉農高三年生 谷川祐次)

みんなより一人の方が僕は好き家族が居てこそ言える言葉

(倉吉北高二年生 堀江トオル)

ありがとう吾の心の片隅に亡くなってから目覚めるのかな

(倉吉北高二年生 田中丈大)

ここ最近冷たいままのイス三つたまにはそろって食事がしたい

(倉吉北高二年生 川畑 哲)

毎日の寮生活で思い知るただいまの返事ない寂しさを

(倉吉北高二年生 箕島朱里)

父母がなつかしく読むアルバムは自分にとってはただの黒歴史

(倉吉北高二年生 桑野柊人)

入寮日初めて使った洗濯機失敗したけど母は笑わず

(倉吉北高二年生 林 花奈子)

### 【高校生の部 講評】

名 越 和 範

高校の部の応募数は少なくて残念でした。次回からは今回の四倍から五倍ぐらいあればと期待しています。

高校生ですの、和歌について知っておくべきことを少し確認しておきたいと思います。和歌(短歌)が五・七・五・七・七の定型をもっていることはよくご存知でしょう。ただ三十一文字で表現されればそれでよいのではなく、常に新鮮なことばの使い方(組み合わせ)が必要です。「新鮮な」とはことばのほうではなく、使い方のほうにかかります。

日常ふと心に浮かんだ自分の気持ちを文字数の形式に乗せて表していく時に、使い古された表現・言い回しでは人に理解されやすいとしても芸術性が出てきません。かと言って自分にか理解できないことばや表現で詠ってみても人の共感は得られません。意外性がありながらも

## 山上憶良短歌応募状況

### 小学生の部

※授業実施

小学校名	応募数 (主な学年)						計	備考
	1年	2年	3年	4年	5年	6年		
西郷小						49	49	
河北小					1	64	65	
明倫小		1	1		2	26	30	※
成徳小	2		1		19	21	43	※
上灘小		1	1			42	44	※
小鴨小				1		58	59	
上小鴨小						14	14	
北谷小						10	10	※
高城小						25	25	※
社小		1	1			57	59	※
灘手小						7	7	※
上北条小						23	23	
関金小						20	20	
山守小						9	9	※
計	2	3	4	1	22	425	457	

### 中学生の部

中学校名	応募数 (主な学年)			計
	1年	2年	3年	
東中		103		103
西中	90	96		186
久米中		27	9	36
河北中	129	109	111	349
鴨川中		34		34
湯梨浜中				0
計	219	369	120	708

### 高校生の部

高校名	応募数 (主な学年)			計
	1年	2年	3年	
倉吉北高		28		28
倉吉東高	1	3	1	5
倉吉農高	17	6	13	36
計	18	37	14	69

小学校の部 457  
 中学校の部 708  
 高校の部 69  
 総応募数 1234

人に共感されるギリギリのことばの選択、組み合わせが大切なのです。  
 また和歌が韻文である以上、意味が理解されるだけでなく、一字ずつの音の響き・全体のリズム感も大切な要素です。なめらかな読み方、はぎれのよい読み方など、内容とマッチさせる工夫が求められるのです。  
 さて、今回の「憶良賞」となった作品は、兄弟があればどここの家でもありがちな親の子どもを慌てて呼ぶ時の名前の混乱を、犬との混乱として表現したところが大変おもしろく、ユーモラスでありながら犬への家族の愛情の深さを彷彿とさせる作品でした。犬がお父さん役になっている某携帯電話会社のCMを思い起こさせる点も現代性を感じさせます。「名前」ということばを二回使っていますが、一回で済ませる工夫があればさらに立派な歌になったのではないかと思います。

入選作や佳作にも新鮮な発想やことばの選択が見られるものが多くありました。高校生ともなれば本当に伝えたい気持ちはことばとして直接表さず、歌の全体から感じ取れるように表現したい気がしますが、それが受賞作には多かつたのはうれしいことです。



伯耆の国司「山上憶良短歌賞」募集要項

○ 趣旨

倉吉市には伯耆の国庁がおかれ、万葉歌人の山上憶良は716年から5年間国司を務めましたが、残念なことに、憶良が倉吉市で作った歌は現存していません。

そこで、日本文化の極みでもある短歌に親しむとともに、山上憶良と伯耆国庁のつながりを広く知らせるため、「山上憶良短歌賞」を創設し市内の児童・生徒に短歌の募集をいたします。

○ 応募規定

1 作品

未発表の作品とし、1人1首とします。

2 募集部門

- ① 小学生の部
- ② 中学生の部
- ③ 高校生の部

3 対象

倉吉市内に在住又は倉吉市内の小学校・中学校・高等学校に通学する児童、生徒

4 応募料

無料

5 応募方法

「家族」をテーマとした短歌を所定の応募用紙に書き、必要事項を記入し、倉吉市立図書館へ郵送または持参してください。

6 応募受付期間

平成24年11月1日（木）～平成24年12月28日（金）

7 選考委員

- 池本 一郎（鳥取県歌人協会顧問・塔短歌会）
- 多田 典子（羽合短歌会・国民文学）
- 岩垣 和久（倉吉文芸編集委員会・中学校国語）
- 名越 和範（前倉吉東高等学校校長・高校国語）
- 中本久美子（安田小学校長・小学校国語）

8 審査

選考委員により審査を行い、最優秀賞・優秀賞・佳作賞作品を決定します。

9 問い合わせ先・応募先

倉吉市立図書館

〒682-0816 倉吉市駄経寺町187-1

電話 0858-47-1183

FAX 0858-47-1180

今よみがえる伯耆国司  
ほうきのこくし

やまのうえのおく  
山上憶良

「短歌づくりに夢をつないで」

◆日時／平成24年9月～10月

◆会場／倉吉市内・小学校

◆主催／朗読ボランティア

やまびこの会



朗読ボランティア やまびこの会による読み聞かせ